

津波・波浪ライブカメラ（イメージ）

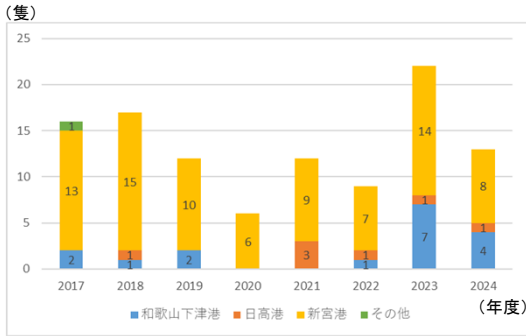
港湾の利用促進

観光産業の強化

【クルーズ客船の寄港促進】

クルーズ客船の寄港は、港だけでなく周辺地域にも経済効果を与えます。

2020年度は新型コロナウイルス感染症によりクルーズ客船の運航休止が相次いだものの、官民連携の継続的な誘致活動により、2023年度には、過去最高の22隻、2024年度は13隻が和歌山県内に寄港しました。



クルーズ客船の寄港実績



出港のお見送り(岸壁上)



接岸中のノルウェー جان・スピリット

【2025年3月 和歌山下津港に寄港したノルウェー・スピリット】

【整備事業】

地域の基幹産業の競争力強化のための水域(泊地)施設の整備を進めています。

和歌山下津港(和歌山市) 泊地の整備

【RORO船の定期就航】

RORO船とは、トラックやシャーシ(荷台)の車両をそのまま船に積み込んで輸送する貨物船です。労働時間規制による運転手不足への対応、CO2排出削減の課題解決に資する輸送手段として期待されています。

和歌山下津港には、2022年10月から毎週土曜日に千葉港へ向かう定期RORO船が就航しています。



RORO船
(和歌山下津港)

熊野白浜リゾート空港(南紀白浜空港)の利用促進

観光産業の強化

南紀白浜空港は、和歌山県の空の玄関口として、1968年に開港しました。民間の能力を活用した効率的なサービスを提供できるよう、2019年4月から(株)南紀白浜エアポートが運営しています。2024年1月には「熊野白浜リゾート空港」と愛称を設定し、国内外から数多くの利用客が訪れるよう、誘客促進を図っています。

【空港の利用促進】

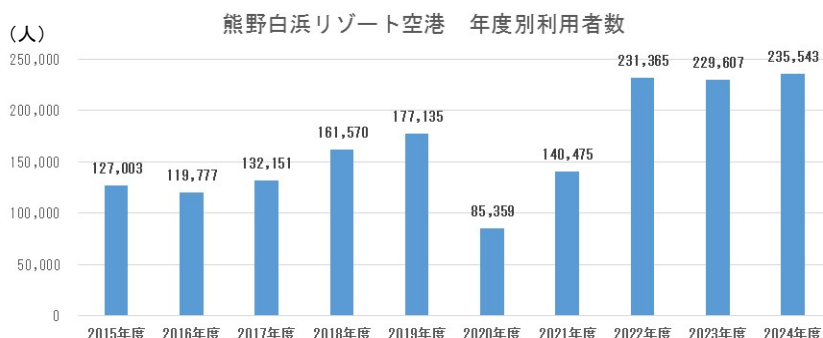
熊野白浜リゾート⇄東京羽田線は、朝、昼、夕方の3往復(6便)を定期運航しています。2024年度の利用者数は235,543人となり、過去最高を記録しました。また、2023年以降、新しく完成した国際線ターミナルビルを活用して、ベトナムや韓国からの国際チャーター便の運航を誘致しました。

今後も空港のアクセス改善や、空港愛称のPR、国内定期便の増便に向けた需要喚起、国際線誘致等により、空港の利用促進を図ります。

また、航空機の大型化等に対応し、海外、首都圏等からの更なる観光客等の誘致を図るため、滑走路延伸(2,000m→2,500m)に向けた調査、分析を行います。



国際線ターミナルビル



国際チャーター便の受入
(大韓航空の就航 2025年1月)